

聞 ・ 聞 ・ 聞

発行責任者 浄土真宗本願寺派 正善寺 住職 酒井光義 令和2年3月8日

〒802-0045 北九州市小倉北区神岳二丁目 10 番 31 号 電話 093 (541) 2409 番

如来さまのお慈悲に包まれて



なごりをしくおもへども、娑婆の縁尽きて、



ちからなくしてをはるときに、かの土へはまゐるべきなり

「歎異抄」第九条は、親鸞聖人と弟子の唯円房が「浄土に往生する」ということについて、互いに素直な心情をさらけ出しながら、法を味わわれた名所です。私は（この条のお言葉すべてですが）、法に出あった者の死を受容していく心情が、これほど見事に語られた言葉を他に知りません。聖人によって人間的な心情が包み隠さず吐露されるなかに、そのありのままを包み込むあたかな如来さまが強く浮き上がってきます。

この一条を読むたび、先立たれた方々が胸中に甦ってきます。お寺のことに懸命に尽くしてくださった方。法衣の私に頭を下げ続けて仏法の尊さを伝えてくださった方。「お寺の坊ちゃん」というだけでいつも可愛がってくださった方。みんな素敵な記憶を残し、名残惜しい思いの中、先立っていかれました。

今、私は思うのです。この方々は眼前に迫った、娑婆の縁尽きんとする「最期」の時、何を思われたのだろうか。そしてこの私は、必ずやってくるその最期の時、いったい何を思っているのだろうか。いやもちろん「死の縁無量なり」ですから、どんな最後になるのか全く分かりませんし、そんなことを思う間もない最期かもしれません。それでもどうしても考えてしまいます。

もし仏教をはねつけ、如来さまに出あえていなかったとしたら、「死んだらおしまいや」とうそぶきながら、どうしようもない空しさのなかで、最期を迎えたかかもしれません。

またもし自力の仏教に出あっていたとしたら、最期の時、自分は煩悩の娑婆世界を厭い、本当に清浄なる浄土を願う身となっているのか、心静かに生涯積んだ行徳を自己の上に確認したのでしょうか、いやいや無理無理。私の体たらくを思えばこの道では不安しかなかったでしょう。

しかしながら今、私は他力の教えに出あわせてもらいました。できればカッコいい最期がいいなと勝手に想像はしますが、きっとそうはならないでしょう。でもどんな最期でも、どれだけ名残惜しくても、その時が来たら如来さまのお慈悲に包まれてお浄土へ向かわせてもらいます。この一条を読むと、この教えなら私にも居場所がある。そう思えて有り難いのです。

2019. 11月より 2020. 2月まで

令和の初めの思い出の縁

2019.11 正善寺報恩講法要



法要の荘厳。



婦人会特製のお斎



満堂の聴聞

2019.12.15 忘年会 笑顔いっぱい 観山荘本館にて



2019.12 位牌会



忘年会の始まりポーズ 終わりのポーズ？

2020.2.15 正善寺仏教婦人会例会・フラワーアレンジメント会



3B体操もしています。ご希望の方はどうぞ参加ください。

ご 案 内

と き 令和2年3月19日より20日まで

春 季 彼 岸 法 要

	19日(木)	20日(金)
昼 席	午後1時30分	午後1時30分

講 師 (熊本県) 良 覚 寺 住職

本願寺派布教使 吉村隆真師

どうぞお誘いあわせのうえお参り下さい。

3月16日(月)法要準備会

10:0より15:00まで

彼岸法要の準備、本堂のおかざり、
納骨堂の清掃等を行います。

昼食用意しています。たくさんのご参加
お願いします。

正善寺寺族 次女 増永行子に赤ちゃん
が生まれました。命名「喜歩・きほ」です。
これからも親子共々よろしくお願ひいたし
ます。 令和元年12月19日 誕生



初 節 句
迎えました



気づいていらっしゃいましたか??? 御本堂 欄間の上段 天人絵図
金地が剥離し浮いていたものが修復され 新しい絵図に変わりました!!!

行事ご案内【咲くも無心散るも無心花は嘆かず今を生きる】

4月8日は「お釈迦様の誕生日」

みんなでお祝いしましょう

花まつり・甘茶接待

【日時】4月8日(水)

午前11時より午後16時まで

【会場】正善寺・神岳保育園玄関前

小倉仏教会主催

午後14時より午後16時まで

【会場】**且過丸和前にて開催**

初参式(しょさんしき) 正善寺本堂にて

とき 6月7日(日)午前11時開始

小さいお子様がお寺の仏さまの前で初めてお参りをする儀式です。最近生まれたお子様はぜひ参加いたしましょう。家族揃っておいでください。お待ちしております

ちいさき手合わせすがたの暮さや

われのこころに おんひかりさす

智海

次回の法要のご案内 **永代経法要**

【とき】 6月6日(土) 昼席・6月7日(日) 昼席 (昼席2日間)

【講師】 当山 正善寺 住職 酒井光義

準備会予定 6月3日(水) 10:00~15:00

編集後記

三月に入り、色とりどりの花が咲いていく中で、新型コロナウイルスの現状に心は沈みがちになります。ご門徒の皆様お元氣でお過ごしでしょうか?どうぞご無理をされませんようにお過ごし下さい。

「こんなことがあるのだろうか」という事が人生には何度もやってきます。ひと様から見ると何もないように見えていても色々な事が起こります。眠れない夜、心のはりさけそうになること、不安の海に一人つかっているような気持ちになること。本当に人生は厳しいです。今年のお正月に私が中学校の時に世話になった家庭科の先生から年賀状をいただきました。先生は年賀状に「86才になりました。感謝と喜びです」と書かれ、「智子さんが自分の中で一番愛おしく思います。」と書いてくださっていました。先生にはもう何年もお会いできていないのに、遠く離れた場所からこんな風に自分のことを思っていてくださる人がいることに感謝して、1月1日にその年賀状を受け取ってから、今日までその恩師の一つのことばに何度も何度も励まされました。大切な人が病に倒れたり、築いてきたものを心ない言葉で批判されたり、何かが起こるたびに恩師のあたたかい言葉の重みを味合わせさせていただき一歩を踏み出すことができている。恩とは他の人から与えられた恵み慈しみのこと。45年の月日が経っても先生は私にあたたかい光の恵みと慈しみの心をあたえてくださっていることをとてもありがたく思い、年賀はがきを懐に大切にしまい今は一日一日を送っています。三月、お寺の保育園では卒園式を迎え、送りだす二十名のこどもたちへも私が恩師からいただいた光をこどもたちへつなげていきたいと思う春の日です。「言わないからってなやんでないわけじゃないし、だいじょうぶなわけじゃないし、おこってないわけじゃないし、よろこんでないわけじゃないし、考えていないわけじゃない 言葉にしなくても気持ちに気づいてくれる人 見てくれている人がいたらいいな そしてそんな人にほくもなりたい」

新型コロナウイルスの感染の現状を把握しながらのお彼岸法要です。勤めさせていただきますが、時間短縮など考慮しての法要です。ご理解のほどよろしく願いたします。まだまだ寒い日もありますのでどうぞお身体のほどご自愛くださいませ。一日も早く安心できる日々がくることを念じてすごしたいと思います。

合掌